

えんじにあ
Ring

2021, APRIL
No.425

工学を 学ぼう





工学を学ぼう

この広報誌『えんじにあRing』の発行母体は工学研究院、すなわち「工学」の研究者たちの集まりです。皆さんは工学についてどのような印象を持っていますか？

北海道大学を含む8大学工学部長会議のもとに設置された「工学における教育プログラムに関する検討委員会」（平成10年）では、「工学とは数学と自然科学を基礎とし、ときには人文社会科学の知見を用いて、公共の安全、健康、福祉のために有用な事物や快適な環境を構築することを目的とする学問である」と定義しています。

この定義からもわかるように、工学は人と社会の存在を前提にした学問分野です。私たちの身の回りにあるモノや仕組み～携行品からインフラに至るまで～ほぼすべてが工学研究の成果によるもの、と言っても過言ではないでしょう。そしてこれらの多くが1945年の戦後以降つくり出されてきたものです。

工学の急速な発展は、私たちの生活を物質的に豊かにする一方で、公害や環境汚染など多くの問題を生み出してきたこともまた事実です。こうした問題の解決はもちろん、現在グローバルに推し進められているSDGsなどのさまざまな取り組みを含め、物心ともに豊かな社会の実現に工学は大きな役割を果たしています。

今号では、工学の立場から将来の社会を担っていく、専門分野の異なる現役学生※たちに「工学を学ぼう」と題して寄稿してもらいました。皆さんの先輩にあたる彼・彼女たちの取り組みと工学に対する熱い想いを誌面から感じ取っていただけたら、と願っています。

※執筆時点

コーディネーター 谷 博文(工学研究院 応用化学部門 准教授)

01



応用物理学専攻
トポロジー理工学研究室
修士課程1年 武田 魁人

PROFILE
> 出身高校 / 苫小牧工業高等専門学校
> 研究分野 / 宇宙物理学
> 研究テーマ / トポロジカル重力理論を用いた宇宙物理現象の解明
> 研究室ホームページ
<https://exp-ap.eng.hokudai.ac.jp>

Kaito Takeda
Master Degree Program 1st year
Laboratory of Topological Science and Technology
Division of Applied Physics

PROFILE
> High school : National Institute of Technology, Tomakomai College
> Research field : Astrophysics
> Research theme : Astrophysical phenomena in topological gravity
> Laboratory HP :
<https://exp-ap.eng.hokudai.ac.jp>

工学なのに宇宙？
Engineering, but studies on the universe?

宇宙の謎を解き明かしたい！ 世界を変えてきた好奇心を大切に

工学的・理学的考察ができる人に

身の回りにある様々な現象に対し、誰しも一度は「なぜ？どうして？」と疑問に思ったことがあるはずです。それを美しい数式で記述する学問が物理学(理学)です。一方でさらなる科学技術の発展には、工学的に応用する能力が不可欠となります。そこで重要なのが応用物理学です。本コース・専攻では応用物理学をマスターすることができ、理学あるいは工学のどちらかに偏ることなく、双方向から物事を考察できるようになります。

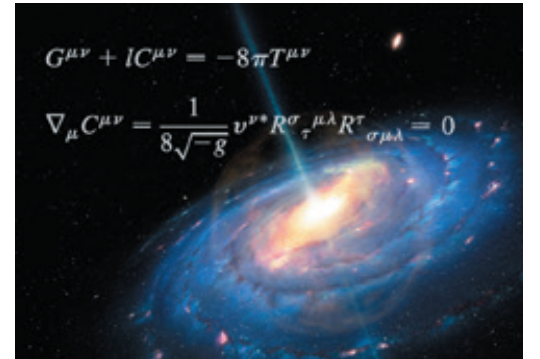


図1 銀河の回転運動や宇宙ジェットなどもトポロジーが密接に関連しているかもしれません。
Figure 1 : Rotation of a galaxy and astrophysical jets may be closely related to topology.

宇宙の研究もできる工学系

私は、工学系に所属しながら宇宙の研究を行っています。本コース・専攻にはそれほど自由度があるということです。「宇宙の研究をして一体何の役に立つのか」と思われるかもしれませんが、疑問

に思ったことを解明しようとする姿勢こそが何より大切だと思います。人の持つ興味や好奇心こそが世界を大きく変えてきたのです。自分の好きなテーマで研究した結果が常識を覆すきっかけになるかもしれません。

02



大学院総合化学院 総合化学専攻
生物計測化学研究室
修士課程2年 九鬼 静香

PROFILE
> 出身高校 / 横浜雙葉高等学校
> 研究分野 / 分析化学
> 研究テーマ / 重症度診断のためのATPおよび乳酸の迅速測定システムの開発
> 研究室ホームページ
<https://microfluidic.chips.jp/jp/>

Shizuka Kuki
Master Degree Program 2nd year
Laboratory of Bioanalytical Chemistry
Division of Chemical Sciences and Engineering

PROFILE
> High school : Yokohama Futaba Senior High School
> Research field : Analytical chemistry
> Research theme : Development of measurement system for rapid test of ATP and lactate
> Laboratory HP :
<https://microfluidic.chips.jp/en/>

今の私に何ができるか
What can I do, now?

患者の重症度を速やかに測定 よりよい未来の実現に向けて

学部説明会の一言で決意

「化学の知識と技術を応用してよりよい未来を実現しよう」。学部説明会で聞いたこの言葉に惹かれ、工学部への進級を決めました。もともと化学に興味があり応用化学コースを選択しましたが、さまざまな化学を学ぶたび、その応用分野の幅広さに驚き、自分はどのような化学を通してよりよい社会の実現に貢献できるのだらうと夢を膨らませました。

成功だけが研究ではない

現在、私が取り組んでいる研究は、医療現場で患者の重症度を簡単かつ速やかに測定できるシステムの開発です。血液中のアデノシン三リン酸と乳酸から酵素反応によって生成した過酸化水素を電気化学的に測定することで重症度の変化を診断します。
実験は毎回予想通りの結果が得られるとは限

りません。改善を重ねても上手くいかない、そんなことも多々あります。しかし、そういう時こそ、新たな発見が生まれると考えて日々研究を続けています。



図1
ATPと乳酸を電気化学測定する測定システム
Figure 1 :
Design of measurement system for electrochemical measurement of ATP and lactic acid



図2 研究室のメンバー
Figure 2 : Lab members

03



ちょっとだけ世の中を便利に
Making the world a little better

社会貢献を目指し 日々研究をアップグレード

実社会に密着した研究開発

工学院時代はリチウムイオン電池の電解液について研究を行っていました。2019年、名城大学の吉野彰教授たちがノーベル化学賞を受賞した研究も、リチウムイオン電池の研究開発でした。こうした実社会で使われる技術に取り組みるところが工学系研究の醍醐味です。また日々新しいことにチャレンジできる点も研究の魅力の一つです。慣れるまでは学生生活が忙しく感じることもあるかと思いますが、教授や研究室のメンバーと日々相談し、議論し合える万全なサポート体制で成長できる環境が待っています。

研究者はアーティスト

研究生活はときにアーティストックであると感じることがあります。自分の研究成果を社会に発信しつつ、新たに研究を進めていく過程は、過去の作品に固執せず、次はさらに良いものを作る

うと努力し、社会に貢献し、人々を魅了するアーティストの姿勢とも重なります。皆さんも創造的な工学研究を通して、より充実した大学生活を過ごしてみませんか。

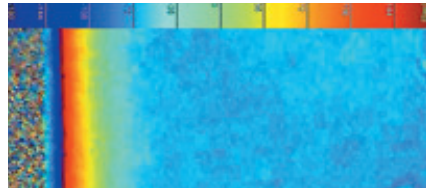


図1 電池用電解液の濃度変化を可視化
Figure 1 : Visualization of concentration profile for a battery electrolyte.



図2 研究室のメンバーで道内旅行（2019）
Figure 2 : Traveling in Hokkaido with the laboratory members.

材料科学専攻 環境材料学研究室
2021年3月 修士課程修了
アクセンチュア株式会社 三木 昭典

PROFILE

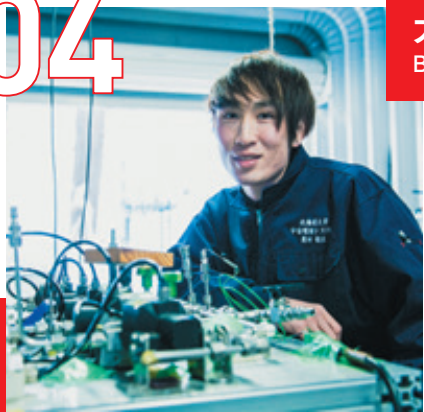
- > 出身高校 / 兵庫県立姫路高等学校
- > 研究分野 / 電気化学
- > 研究テーマ / ホログラフィック干渉顕微鏡を用いたリチウム金属電析に伴うその場濃度分布測定
- > 研究室ホームページ
<https://lmse.eng.hokudai.ac.jp/>

Akinori Miki
Accenture PLC

PROFILE

- > High school : Hyogo Prefectural Himeji Nishi Senior High School
- > Research field : Electrochemistry
- > Research theme : In situ measurement of concentration distribution during lithium metal electrodeposition using holographic interference microscope
- > Laboratory HP :
<https://lmse.eng.hokudai.ac.jp/>

04



大志を抱け!
Be ambitious!

北海道らしい自由な学び場で 夢をのせたロケット研究

世界初のロケット研究にトライ

在学中は当研究室が世界で初めて実証に成功した端面燃焼式ハイブリッドロケットの研究を行いました。当該ロケットに使われる高精度3Dプリンタで製造した燃料を初めて見たとき「なんて斬新で夢のあるロケットなんだ!」と強く興味を惹かれました。私の研究は先行研究はほとんどなく、日々トライ&エラーの繰り返しでしたが、それは裏を返せば自分の頑張り次第で当該ロケットを実用化に近づけることができるということ。非常にやりがいを感じました。

よく遊び、よく学ぶ!

私の出身研究室を一言で例えるならば、広大で自由な北海道そのものだと思います。というのも研究室が学生の自主性を重んじて自由闊達な場を提供してくれたからです。また研究室のイベントも多く、キャンプやBBQをしたり、時には大学の

体育会が開催するスポーツ大会に有志で参加するなど研究以外の時間も思いきり羽を伸ばして、非常に楽しい研究室生活を謳歌した大学時代でした。



図1 燃焼実験の様子
Figure 1 : Static firing test



図2 研究室メンバーと実験施設(著者は一番前の左から二番目)
Figure 2 : Laboratory members and our firing test site

機械宇宙工学専攻
宇宙環境システム工学研究室
2021年3月 修士課程修了
株式会社クボタ 奥田 裕太

PROFILE

- > 出身高校 / 千葉県立佐倉高等学校
- > 研究分野 / ハイブリッドロケット
- > 研究テーマ / 亜酸化窒素を用いた端面燃焼式ハイブリッドロケットの燃料後退特性
- > 研究室ホームページ
<https://mech-hm.eng.hokudai.ac.jp/~spacesystem/>

Ryota Okuda
Kubota Corporation

PROFILE

- > High school : Chiba Prefectural Sakura Senior High School
- > Research field : Hybrid Rocket
- > Research theme : Fuel Regression Characteristics of Axial-Injection End-Burning Hybrid Rocket Using Nitrous Oxide
- > Laboratory HP :
<https://mech-hm.eng.hokudai.ac.jp/~spacesystem/>

05



内燃機関の奥深さ
The interest of internal combustion engine

エンジン好きの仲間と共に 企業との共同研究で成長中!

初めて運転したときの感動が

自分が設計に関わったものが人の役に立つ光景を見たくて機械知能工学科に入り、大学院に進学しました。この研究室を選んだ理由は、初めてクルマやバイクを運転したときの、大きな鉄の塊が自分の操作で動く感動と、その力の源であるエンジンに魅力を感じたからです。私は内燃機関を使って液体燃料を気体燃料に改質する研究をしています。工学研究の特徴である企業との共同研究はプレッシャーもありますが、それ以上に勉強になることが多いです。

エンジン漬けの幸せな日々

内燃機関は熱力学や流体力学、材料力学などの工学の知識、化学反応である燃焼が組み合わさった複雑な機構です。そのため何が結果に影響しているか考察するのは難しいですが、そこが内燃機関の奥深さだと思っています。

また内燃機関の研究室なだけあって周囲にはクルマやバイク好きな人が多く、平日はエンジン実験、休日は同期とツーリングとエンジン漬けの研究室生活を送っています。

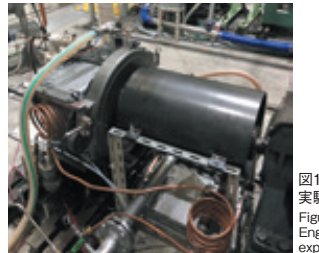


図1 実験用エンジン
Figure 1 : Engines for experiment



図2 同期とツーリング
Figure 2 : Touring with colleague

06



何によって人に憶えられたいか?
What do you want to be remembered for?

福島事故から原子力産業の 役に立ちたいと北大へ

モノづくりを活かせる研究室

高専在学中に福島第一原発の事故が起き、自分が力になれることはないかと考え、学部から原子力工学を学べる北大工学部機械知能工学科に編入しました。複数ある原子力系の研究室の中で現在の研究室を選んだ決め手は、金子先生が指導学生の成果を讃えながら「モノづくりを最上流から一貫して行える研究室です」と説明してくれたその一言です。この研究室なら高専で培った「モノづくり力」を活かしつつ原子力業界の役に立てると思い、心が決まりました。

自分が開発した放射線検出器で憶えられたい!

私の研究テーマは、新規半導体化合物から放射線検出器を開発することで、原料の精製、単結晶育成に使用する電気炉から自分たちが設計、試作をしています。将来は自分の研究成

果で起業も視野に入れており、ビジネスの素養を養うために修士課程から起業家育成プログラム(EDGE-NEXT)に参加しています。春からは工学院が連携している小樽商科大学MBA特別コースに入学し、新たな挑戦に心躍ります。

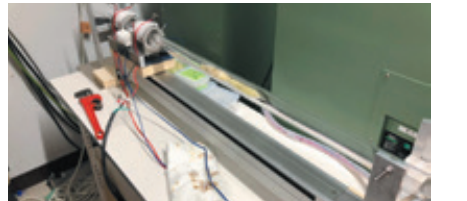
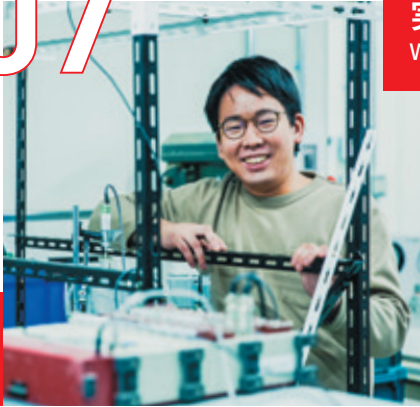


図1 試行錯誤の結果、5代目にして安定稼働ようになった電気炉
Figure 1 : As a result of trial and error, the electric furnace became stable in the 5th generation.



図2 筆者が参加したEDGE-NEXTプログラムの1つであるDemolaのチームメンバー(筆者右端)
Figure 2 : A team member of Demola, one of the EDGE-NEXT programs I participated in (I am on the far right)

07



環境フィールド工学専攻
地盤環境解析学研究室
修士課程2年 本田 康貴
PROFILE
> 出身高校 / 大谷中学高等学校
> 研究分野 / 地盤工学
> 研究テーマ / 浸透力相似模型実験による
スパイラル杭の支持力特性の検証
> 研究室ホームページ
<https://www.eng.hokudai.ac.jp/labo/geomech/>

Yasutaka Honda
Master Degree Program 2nd year
Laboratory of Analytical Geomechanics
Division of Field Engineering for the Environment
PROFILE
> High school : Otani Junior and Senior High School
> Research field : Geotechnical engineering
> Research theme : Bearing capacity characteristics of a spiral pile by
similitudemodel test using seepage force
> Laboratory HP :
<https://www.eng.hokudai.ac.jp/labo/geomech/>

実験から学べること What you can learn from experiments

計画から考察まで実験を通して “諦めない自分”になる

初めて知った土木工学の役割

幼い頃から憧れていた鉄道関係の仕事という
列車運行に関わる仕事や車両を作る仕事を想像
していましたが、調べていくうちに人々が日々当
たり前に利用している鉄道の建設やメンテナンスは
土木の学問が生かされていると知り、大学でより
深く学びたいと思いました。

一つのミスが大きく左右

不安定な地盤に構造物を建てると建物が沈下
してしまいますが、地下の固い地盤に杭を到達さ
せると構造物を支えることができます。私はこの杭
の形をスパイラル状のものに変えとどのような
利点があるのかを調べるため、実験室で模型地盤
を作製し載荷実験を行っています。「実験を行う」
と一言と言っても、実験の計画に始まり、準備、実
施、数値解析、考察まで全ての工程を行います。
時には一つのミスで全てが台無しになることもあ

りますが、予想通りの結果が出た時の喜びは格別
です。将来、困難な仕事でも諦めずに成し遂げ
られる自分になるためのいい練習期間になってい
ます。

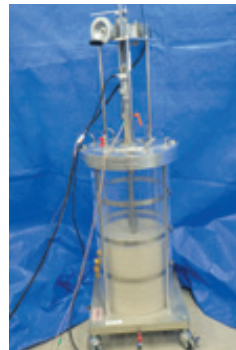


図1
実験で用いる杭貫入・引抜装
置と模型地盤
Figure 1 :
Pile penetration / extraction
device and model ground
used in the experiment



図2 実験で用いるスパイラル杭
Figure 2 : Spiral pile used in the experiment

08



建築都市空間デザイン専攻
都市防災学研究室
修士課程2年 林 響太
PROFILE
> 出身高校 / 釧路工業高等専門学校
> 研究分野 / 都市防災学
> 研究テーマ / 積雪寒冷期における地震津波複合災害の
人的被害に与える影響評価

Kyota Hayashi
Master Degree Program 2nd year
Laboratory of Urban Disaster Prevention
Division of Architectural and Structural Design
PROFILE
> High school : National Institute of Technology, Kushiro College
> Research field : Urban disaster prevention
> Research theme : Effect Evaluation for Victims due to the Complex
Disaster of Seismic Shaking and Tsunamis During the Snowy Cold Season

多様なヒト・モノ・コト Diverse people, things, things

正しい数値と正解のない創造力 建築学科の両側面を満喫中!

知らない領域を見てみたい

工業高等専門学校から北海道大学に編入した
理由は「就職先を決めきれなかったから」です。高
専では学年を追うごとに専門性が高くなり、就職
先も絞られていく環境でした。自分が知らない領
域が他にもあるのではないかと考えるようになり、
進学を決意しました。入学してから多くの人に出
会い、様々な価値観に触れる機会が沢山あり、と
ても充実した学生生活を送っています。

多様な建築学科へようこそ!

建築都市空間デザイン専攻ではプログラミング
から、設計・デザインまで幅広く勉強中です。工
学の中でも建築学科が特殊だと感じるの、数値
を扱いながら「正しさを求める」分野と、設計・デ
ザインなどの「答えのない」分野の両方が存在す
るからです。それぞれのゴールは違っても作り上
げた後の達成感があり、どちらも自分にとっては

面白いです。建築分野に進もうとしている皆さん
にも、この多様な学問の面白さを是非味わって
もらいたいです。

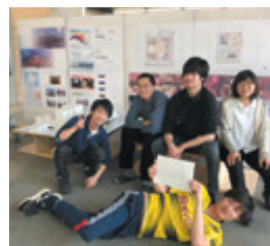


図1
研究室メンバー
(著者は真ん中下)
Figur1 :
Laboratory members



図2 卒業設計
Figure 2 : Graduation design

09



空間性能システム専攻
環境人間工学研究室
修士課程1年 北 樹乃
PROFILE
> 出身高校 / 富山県立高岡高等学校
> 研究分野 / 環境設計のための応用人間科学
> 研究テーマ / 個室型ブースにおける覚醒度の維持と
作業効率向上のためのパーソナル空調の評価
> 研究室ホームページ
<https://www.eng.hokudai.ac.jp/labo/EN-ERGO/>

Juno Kita
Master Degree Program 1st year
Laboratory of Environmental Ergonomics
Division of Human Environmental Systems
PROFILE
> High school : Toyama Prefectural Takaoka Senior High School
> Research field : Applied human science for environmental design
> Research theme : Evaluation of personal air supply device to maintain
vigilance and improve performance in personal office booth
> Laboratory HP :
<https://www.eng.hokudai.ac.jp/labo/EN-ERGO/>

生活環境に密接した研究開発 Research and development closely related to human living environment

自分の研究成果で テレワーク時代を快適に

卓上パーソナル空調を研究

環境工学コースでは私たちの生活に密接した
衛生環境について幅広く学びます。その中で現在、
環境人間工学研究室にいる私は個室型ブースに
おける卓上のパーソナル空調について企業ととも
に研究しています。主に、空調による覚醒度や作
業能力について、様々な生体計測に基づいて評価
しています。眠気が生じやすい狭い空間の中で、
集中力を維持して生産性を高めるために、個人専
用の空調機器使用が効果的ではないかと考えて
います。

自信を育む企業との共同研究

企業との共同研究には緊張感も伴いますが、そ
れ以上に期待もあり、社会人を交えた打ち合わせ
で自分の意見をはっきりと発言する経験が、私の
自信になりました。空調の使用状況は個人差が大
きく解析が難しい面もありますが、この研究は今

の時代に求められているテレワークに適した空間
づくりに利用価値が高く、近い未来、実際のオフィ
スに設置される可能性を思うとやりがいも大きい
です。

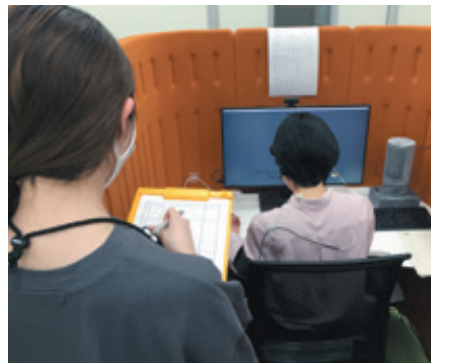


図1 個室ブースでの人対象実験の風景
Figure 1 : Scene of human experiment in a personal office booth

10



環境循環システム専攻
地圏物質移動学研究室
修士課程2年 石山 京花
PROFILE
> 出身高校 / 栃木県立宇都宮女子高等学校
> 研究分野 / 資源工学
> 研究テーマ / 放射性廃棄物の地層処分に関する研究
> 研究室ホームページ
<https://www.eng.hokudai.ac.jp/labo/trans/index.html>

Kyoka Ishiyama
Master Degree Program 2nd year
Laboratory of Groundwater and Mass Transport
Division of Sustainable Resources Engineering
PROFILE
> High school : Tochigi Prefectural Utsunomiya Joshi High School
> Research field : Resource Engineering
> Research theme : Research on Geological Disposal of Radioactive Wastes
> Laboratory HP :
<https://www.eng.hokudai.ac.jp/labo/trans/index.html>

やるもやらぬも自分次第 It's up to you whether you do it or not

目の前のことに誠実に 「人の役に立つ」工学研究

始まりは「なんとなく」でも

実を言うと「なんとなく」工学の道を選んだ私
ですが、目の前の研究に必死になって取り組むう
ちにそれに面白さを感じている自分がいます。私
は現在企業と共同で放射性廃棄物の地層処分に
関する研究をしています。私の計算次第で日本の
未来が変わる、と言うのは冗談ですが、“人の役に
立つ研究ができる”、これが工学の偽らざる醍醐
味です。研究は一進一退で大変なことのほうが多
いですが、目の前の課題の一つずつ向き合って取
り組んでいます。ぜひ、工学という選択肢を増やし
てほしいと思います。

没頭できるものが自分の糧に

研究が大変なときでも私が頑張れるのは、弓道
部での経験があるからです。学部時代の4年間で
やりきった経験が糧となり、私を成長させ続けて
くれます。皆さんも何か一つ、熱量を注げるものを

見つけてください。勉強でも部活でも、何かを成し
遂げた経験は必ず自分の力になります。コロナ禍
で不安が絶えませんが、少しでも明るい未来が
待っていますように。



図1 地層処分の仕組み(資源エネルギー庁より引用)
Figur1 : Method of geological disposal



図2
弓道の大会で
男女ともに優勝
Figure 2 : Both
men and women
won the Kyudo
tournament

Ring Headlines

Information

脳みそに エンジンかけろ! DEMOLAで



▲参加者の記念撮影

DEMOLAとは、学生と企業がチームを組み、イノベーションを引き起こすためのビジネスアイデアを創造するフィンランド発祥のプログラムです。

北海道大学では2018年に日本で初めて導入し、2020年までの累計で20企業と13大学/130人以上の学生にご参加いただきました。北海道大学大学院工学研究院・工学院・工学部からは、毎年多くの参加をいただいております。

参加いただいた学生からは、「他学部・他学とのネットワークができた」

(産学・地域協働推進機構 産学連携推進本部イノベーション創出部門 共創人材育成ユニット 産学協働マネージャー 石井 良弥)

「面白い体験ができ視野が広がった」「企業と直接つながりが持てた」などの感想をいただいております。ただアイデアを提案するだけではなく、そのアイデアを企業がライセンスすることで報酬がもらえることも特徴の一つです。

只今DEMOLA HOKKAIDO事務局では多様な学生の参加を募集しております。運営は基本オンラインで行われ、ファシリテーターがサポートします。DEMOLAに参加して20年後の未来と一緒に創造しませんか？



Information

コロナ禍における 学生の就職活動に関する 支援について

昨年来のコロナ対応で工学部内外の様々な活動に影響が出ております。就職活動支援として例年3月初めに実施の北大工学系合同就職支援セミナーも2020年(2019年度)は急遽開催を取り止めることになりました。学部生・院生の皆さん、並びに130社を超える参加企業の方々にも多大なご迷惑をおかけしました。学部生・院生の皆さん、また関係各位の御尽力もあって、昨年10月1日現在の令和2年度卒業・修了者の就職等状況はやや安心させる結果になっております。

2021年(2020年度)の就職支援セミナーはオンライン開催を目指して準備を進め、参加企業は例年より多い142社となりました。当日は新千歳と道外主要空港間を結ぶ航空便に欠航が相次ぎ、オンラインであれば大きな影響が出かねない状況でありましたが、無事に開催され、総計で工学部の一学年人数に匹敵する、500名以上の参加となりました。学部生・院生の皆さんにとっては、オンラインでの就職面接へのトレーニングになるとも考えており、類似のイベントも含め、これらに参加した経験を十分に活用して就職活動を勝ち進んでいただきたいと思います。

(工学院・工学部教育・キャリア企画室長 三浦 誠司)

▶セミナーのリーフレット

視聴無料

事前申込不要

入退室自由

令和2年度 北海道大学 工学系合同就職 支援セミナー オンライン開催 (ZOOM ミーティング使用)

北大工学部・工学院・情報科学院・総合化学院の皆様を積極的に採用したい企業によるオンラインセミナーです。

令和3年
日時 3月 1日(月)/2日(火)/3日(水)

①12:00~13:20 ②13:30~14:50
③15:00~16:20 ④16:30~17:50

各時間帯(説明会35分×2)の2部制です。1回目と2回目は同内容です。
①の場合(1回目12:00~12:35、休憩12:35~12:45、2回目12:45~13:20)
入室は説明会開始5分前からです。説明会途中からの参加も可能です。

北海道大学 工学部・工学院 就職情報WEB

<https://cms.career-tasu.jp/event/top/s/08268>

プログラム詳細は、WEBサイトからも確認することができます。 ※企業情報は随時HPで更新します。

※本セミナーは工学系(工学部・工学院・情報科学院及び総合化学院)の学生を主な対象としておりますが、工学系以外の学生も観覧可能です。ぜひご参加下さい。

ご不明な点は右記まで 工学系事務局教務課就職企画事務局 job3@eng.hokudai.ac.jp

主催/北海道大学大学院工学院・工学部教育キャリア企画室 北海道大学工学部同窓会

Information

アンビシャステニュアトラック准教授に 工学研究院から8名が採択

「アンビシャステニュアトラック制度」とは、本学の強み・特色であるフロンティア研究分野とフィールド研究分野において、将来の研究リーダーたりうる若手人材層の裾野を広げるための制度です。

30歳台前半の有望な若手研究者をアンビシャステニュアトラック教員(准教授)として採用し、研究支援策を講じることで、将来の研究拠点リーダーとして育成することを目的としています。

なお、アンビシャステニュアトラック教員の任期は5年とし、その間の業績審査を経て、任期に定めのない教授又は准教授にすることがあります。

工学研究院からは、右表のとおり令和元年度に2名、令和2年度に1名、令和3年度に5名、合計8名の教員が採択されています。

採用年月日	名前	所属	研究内容
令和2年3月16日	三浦 章	応用化学部門無機材料化学分野	無機材料化学
令和2年3月16日	能村 貴宏	附属エネルギー・マテリアル融合領域研究センター エネルギーメディア変換材料分野	材料科学、エネルギー化学工学
令和2年4月1日	三輪 修一郎	応用量子科学部門 量子エネルギー工学分野	熱流体工学
令和3年4月1日	久保田 浩司	応用化学部門有機工業化学分野	有機合成化学
令和3年4月1日	磯野 拓也	応用化学部門分子機能化学分野	高分子化学
令和3年4月1日	真栄城 正寿	応用化学部門分子機能化学分野	マイクロ・ナノ化学
令和3年4月1日	高橋 裕介	機械・宇宙航空工学部門 宇宙航空システム分野	宇宙工学、 高速流体力学・高温気体力学
令和3年4月1日	北島 正章	環境工学部門環境工学分野	環境ウイルス学、下水疫学

(総務課総務担当)

Information

令和3年度 工学部オープンキャンパスのお知らせ

今年の工学部オープンキャンパスは、令和3年9月19日(日)~20日(月・祝)の日程で開催する予定です。昨年の工学部オープンキャンパスは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から開催方法を大幅に見直し、オンデマンド型のオンライン方式で開催しました。工学部オープンキャンパス開催時に配信した動画は、工学部チャンネル(YouTube)として現在も公開中です。

なお、現時点では開催方法を対面方式とするか、それともオンライン方式のオンデマンド型あるいはライブ型とするかは未定であり、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を考慮して適時決定することになっています。詳細については、本学のホームページにて随時掲載・更新されますので、どうぞご確認ください。北海道大学工学部に興味がある皆様に、対面あるいはオンラインでお会いできることを楽しみにしています。

(工学研究院・工学院・工学部広報室長 川崎 了)



▲瀬戸口工学部長による学部紹介の配信動画が公開中です。

季節だより

心のバロメーター

元気にはしゃぐ子どもの声
耳ざわりだと感じるか
微笑ましいと感じるか
それが心のバロメーター

今の自分には余裕がない
そう正しく判断できたなら
春の香りを深呼吸して
ちょっと気持ちをゆるめよう



写真提供：北工会写真同好会

編集後記

今号の特集「工学を学ぼう」はいかがでしたか？
巻頭言でも書いたように教員は工学を研究し、教育する立場にありますが、
学生の皆さんは授業や研究、その他の活動を通じて工学を学びます。
工学は様々な学問分野を基礎とし、社会と密接に関わる研究分野です。
北海道大学で工学を学んだ多くの卒業生・修了生が現在世界中で活躍しています。
今回登場した学生たちもみな、
将来のより良い社会の構築に大きく貢献するものと期待しています。
皆さんも工学を学びませんか？

(コーディネーター 谷 博文)

えんじにあRing 第425号

令和3年4月1日発行

北海道大学大学院工学研究院／大学院工学院／工学部
広報室

〒060-8628 北海道札幌市北区北13条西8丁目
TEL：011-706-6257・6115・6116 E-mail：shomu@eng.hokudai.ac.jp

広報誌編集発行部会

●川崎 了(広報室長／編集長) ●谷 博文(広報誌編集発行部会長)
●土家 琢磨 ●松島 永佳 ●永田 晴紀 ●佐々木 克彦 ●柴田 元 ●金子 純一 ●古川 陽 ●磯部 公一 ●中嶋 唯貴
●葛 隆生 ●若林 育 ●中島 一紀 ●今城 颯太(事務担当)

ご希望の方に「えんじにあRing」の
バックナンバーを無料送付します。お申し込みは、こちらから。

●Webサイト <https://www.eng.hokudai.ac.jp/engineering/>
●携帯サイト <https://www.eng.hokudai.ac.jp/m/>

次号は令和3年8月上旬発行予定です。

